

古賀悠斗

2月、JR二日市駅前に「祝甲子園出場」と書かれた横断幕が張り出された。

第89回選抜高等学校野球大会（センバツ）への福岡大学附属大濠高等学校（福大大濠）の出場が決定し、オール筑紫ベ이스ボールクラブ（全筑紫BBC）が卒業生の活躍を願って掲げたものだ。中でも26年ぶり4度目のセンバツ出場の原因力となったのが、ゲームキャプテンとしてチームを支える、市内在住の古賀悠斗選手だ。

「高校通算41本塁打」「強肩強打」「大会ナンバーワン捕手」——センバツ開幕前、高校野球関係の雑誌に「古賀悠斗」の名前が並ぶ。全国が古賀選手に注目していた。

そして、センバツ開幕。福大大濠は、初戦に勝利し、チーム創立以来初のセンバツ勝利を飾った。続く2回戦では延長15回でも決着がつかず、再試合。古賀選手は2点本塁打を打ち、チームの勝利に大きく貢献した。守備では頭脳を使った配球でエースの三浦投手を巧みにリード。結果、チームをセンバツとしては初のベスト8に導いた。センバツ終了後、夏に向けて練習に励む古賀選手に話を聞いた。



Profile

古賀 悠斗(こが ゆうと)

175cm、73kg。右投右打。

筑紫小学校、筑山中学校出身。

福大大濠の3年生。福大大濠

では1年生の夏からベンチ入り。

遠投115m、二塁送球1.85秒

の強肩捕手。鉄腕・三浦 銀二

投手とあわせて、高校No.1バツ

テリーとの呼び声も高い。

筑紫野人 -CHIKUSHINOBITO-

全筑紫BBCと農トレ

筑紫小学校、筑山中学校出身。小学2年生から全筑紫BBCで汗を流した。「親しい先輩からの誘いで、全筑紫BBCに入りました。監督は厳しかったです。でもそれは期待と、天狗にならないようにという思いがあったからだと思います」

また中学校時代は、農業者トレーニンングセンター（農トレ）で筋力トレーニングなどに励み、今でも時間があれば通っているという。

勉強と野球の両立

将来のことを見据え、高校は福大大濠に進学。

「優秀な学校だと思って、先のことを考えて福大大濠を受験しました。毎朝7時30分から練習があるので、5時30分に起きて電車で通学しています。練

習の後に勉強するのはなかなか難しいけど、勉強することが後々自分を助けてくれると思うので、野球との両立を心がけています」

平常心と責任感

昨春秋に遊撃手から捕手にコンバート。短い捕手経験ながら、その配球、観察力は群を抜く。また、準々決勝では、連投が続いたエース三浦投手の代わりとしてマウンドに上がった。高校では投手としての練習はしていないにもかかわらず、三回を無四球、二つの三振も奪った。その落ち着きはどこから来るのか。

「常に平常心を保つように意識しています。ゲームキャプテンとして、中軸としての責任を持つ。気持ちを切らさず、波がないように心がけています」

この1年の目標、その先の目標

「センバツではベスト8まで行きましたが最後は負けてしまいました。最後までチームの雰囲気はともよかったです。課題も見つかりました。この1年の目標は、まずは夏の甲子園に出場すること。そしてその先にセンバツで果たせなかった優勝をすることが一番の目標です。将来は立派な大人になりたい。その上で、プロに進むことを

センバツ(滋賀学園ー福大大濠)五回裏、2点本塁打を放つ古賀選手(毎日新聞社)



広い視野でチームを統率する



キャッチボールも一球を大切にしている



JR二日市駅前に張り出された横断幕

目標としています」

母親への感謝、応援してくれる人への感謝

一番感謝している人について質問すると、少し照れ臭そうに「やっぱりそれは母親ですね」と答えた。栄養面をはじめとする体調管理など、古賀選手を誰よりもサポートしてくれる人への感謝も忘れない。

最後に、応援してくれている筑紫野市の皆さんへ一言をお願いした。

「いつも応援ありがとうございます。夏に結果を出して高校生活を終わらせたいと思っています。また、長く野球をしていくつもりなので、今後とも応援よろしくお願いします」

インタビューを終えた後、古賀選手は笑顔でグラウンドへと走って行った。その表情は温和で器の大きい人間性を感じさせる一方、眼光是鋭く、明確な目標に向いている。センバツで勝利したことによる自信、最後は負けたことの悔しさ、多くのライバルとの出会いが糧となり、これから日々成長していくことだろう。

夏の高校野球、古賀選手の活躍から目が離せない。